

外部評価結果総括表

| | |
|-------|-------------------------|
| 事業所名 | 東海市在宅介護事業援助の会ふれ愛 |
| 評価確定日 | 2007年2月28日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人HEART TO HEART |

I 運営理念

| 領域 | 評価項目数 | できている項目数 | 改善が必要な項目数 | 判断が不能な項目数 |
|--------------|---|----------|-----------|-----------|
| 運営理念・運営理念の啓発 | 3 | 1 | 2 | 0 |
| 特記事項 | 「人は老いては子供に帰る。年をとっても、生活が困難になっても、どんな困難を抱えてもこの町で安心して暮らしていけるように社会貢献を目指して行動し、まじよう」理念に「ふれ愛 三つの心得」いつもその人の身になって、いつも高い技能を旨としていつも明るく笑顔で行動を「は、自己評価でそれぞれが「笑顔」を忘れずに「自分の家のよう」に「ときどき感情が出てしまうことがある」「認知症の重度化で受容できないときがある」と振り返り、月2回の会議での入居者への対応方法の話し合いを通して共有している。 | | | |

II 生活空間づくり

| 領域 | 評価項目数 | できている項目数 | 改善が必要な項目数 | 判断が不能な項目数 |
|-------------------|---|----------|-----------|-----------|
| 家庭的な生活環境づくり | 4 | 3 | 1 | 0 |
| 心身の状態に合わせた生活空間づくり | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 特記事項 | ゲルニアホームの玄関が表どおりに面しており、道を尋ねたり、仕事関係者も尋ねてくる。ガラス張りの玄関は、明るく、下駄箱や脱いだ履物が置かれた状態は、親しみを感じさせる。台所と食堂が一つになっており、またそこが唯一のたまり場としてリビングを兼用している。6人が囲んで座れるテーブルを真ん中に置いて一杯の空間となっている。そのため、リビングの拡張を含めた増改築を計画している。併設ゲルニアホームフロアとの通路は開放され行き来が自由である。パリアフリーのつくりで、トイレは車椅子が使える広さがある。歩行にふらつきがある方は、歩行器を使って移動をしている。 | | | |

III ケアサービス

| 領域 | 評価項目数 | できている項目数 | 改善が必要な項目数 | 判断が不能な項目数 |
|-----------------|--|----------|-----------|-----------|
| ケアマネジメント | 7 | 4 | 3 | 0 |
| ホーム内でのケア | 9 | 6 | 1 | 0 |
| 生活支援・ホーム内生活拡充支援 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 医療・健康支援 | 7 | 7 | 0 | 0 |
| 特記事項 | 月2回のミーティングで、事例をとりあげ検討をしている。6人の入居者1人1人に対して、職員1人ずつが担当者となり、介護計画の原案を作っている。入居者の状態の変化について24時間の生活の様子を記録から集積し分析をする丁寧なアセスメントを行っている。転倒などの安全性を優先させざるを得ないため行動の制限を指示したり、嚥下障害があるため普通食を我慢してもらいミキサー食を提供することなどの制約をすることについては、「尊敬と安全性の板ばさみ」と自己評価している。入居者のばたらきかけ、他の方法の工夫や智慧を出していくことと、入居者の悩みや訴えに耳を傾けていく姿勢を大切にしている。入居者の入居者の夜間の頻尿対応で、熟睡をとるかトイレ誘導か職員間で検討している。失禁が熟睡をとるか入居者本人がどうしてほしいかを置き去りにして介護職員だけで、アセスメント話し合いを続けている。入居者が何を望むかの基本を大切にしている。ほしい、ターミナルケアもやっしていきたいとしているが、受診機会の多い医院は往診は行っていないので、今後の課題である。現在往診可能な医師を探している。 | | | |

IV 運営体制

| 領域 | 評価項目数 | できている項目数 | 改善が必要な項目数 | 判断が不能な項目数 |
|------------|--|----------|-----------|-----------|
| 内部の運営体制 | 11 | 10 | 1 | 0 |
| 情報・相談・苦情 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| ホームと家族との交流 | 3 | 3 | 1 | 0 |
| ホームと地域との交流 | 5 | 4 | 1 | 1 |
| 特記事項 | 月2回のミーティングで管理者と職員は意見交換している。管理者はホームの2階に住み食事を一緒に食べ、入居者の細かい部分も把握している。日常的に管理者と職員は話し合い、管理者は、職員の意見を聞く姿勢はある。自己評価は7名の職員全員参加で行い、一人ひとりの職員が項目ごとに丁寧に書き込んでいる。日勤3名(食事係り1名)夜勤は一人体制であるが、11月より、17時から21時まででは2人体制とし、夕食準備から就寝時までをゆくりと対応できるようにした。定員6名のため、職員を雇う収入が足りないため、増設して9名定員にしようという計画もある。家族の中には「定員は6名のごんまりとしたままで、利用料の値上げをして、職員やホームの安定を望む」という声もある。月1回利用料の請求に合わせて入居者自身が家族あての葉書を出すようにしている。 | | | |

講師(全体を通して)

母体法人「東海市在宅家事援助の会ふれ愛」は、平成2年家族介護の体験をもとに地域での生活支援から始まった助けあいの会員制の組織であり、ボランティア活動を中心に10年以上の長い活動歴がある。ふれ愛の家事介護支援、サービスデスク、グループホームの一体事業で小規模多機能をすでに実践をしている。市からは、介護保険サービスとしての小規模多機能居宅介護事業への新規参入を働きかけられており、新規の事業への取組みも検討をしている。地域での長い活動、蓄積、協力会員の存在など有利な条件もあるが、現在の事業の経営面、人材面での課題や新規事業における経営面、人材確保の課題について、法人理事会や協力委員会とよく話し合っていくことが求められる。創業記念日(5月)には毎年謝恩バザーを行っており、多くの地域の人々が訪れる。職員が小学生のボランティアを見つけて、三河万歳やよさこいなど、子供たちの姿に入居者は喜んだ。2月にも子供たちが訪れることになっている。ふれ愛の活動を市民向けに郵便受けにいれ、伝し協力会員、賛助会員、運転手の募集などを呼びかけている。趣味、手芸、太鼓、フラダンスなどのボランティアは、地域の方々の大きな支えで運営をされている。今後の小規模多機能ホームの展開に期待をしたい。